

# 「臭い対策に」被災地へ消臭剤

## 北見の環境ダイゼン、岡山・総社市に

北見市端野町の消臭剤製造・販売「環境ダイゼン」（窪之内 寛社長）が23日、西日本豪雨で被害を受けた岡山県総社市に、牛の尿を原料にした自社の消臭剤「きえぐる」約800個（76万円相当）を発送した。同社は「仮設トイレをはじめ、家屋の床下、床上浸水の消臭に活用してほしい」と1日も早い復興を祈っている。

「きえぐる」は、乳酸菌や酵母菌などの有用微生物群を牛の尿で培養。大腸菌などの有害菌による悪臭を微生物の力で分解することで、高い消臭効果がある同社の主力商品だ。

同社は、2015年の茨城県・鬼怒川の水害では常総市に、16年の熊本地震では熊本県など

## 復興祈るエール添え

に消臭剤を寄付。今回の西日本豪雨では、数カ所の被災自治体に連絡を取ったところ、避難所が市内に12カ所ある総社市から「生活が長期化して臭いが問題になっているので、とても助かる」との返答があったため寄付を決めた。

この日送ったのは「きえぐる」の災害対策用の液体タイプ（1リットル）288個、液をゼリー状に固めた据え置きタイプ288個、スプレータイプ225個。段ボールには、窪之内社長が手書きした「心、折れることなく前に進んで」とのメッセージを添えた。

窪之内社長は「被災地の中国、四国地方には取引先が無く、発送が遅れてしまい申し訳ない。

水が付いた場所などは臭いも相当であると推測するので、少しでも役に立ってほしい」と話した。（菊池圭祐）



岡山県総社市に送るため、箱詰めされる消臭剤「きえぐる」